

わが同窓会

顧問

石関 力太郎

(英語 38.4~60.3)

卒業生とを結びつける役割をもつてゐる。忙しい日々誰しも過去を思い出す余裕はないが、何かの折、過去の情報がほしくなるものである。そういう時同窓会を思い出す。ふだん忘れられた存在も同窓会としては、会長を中心にして、スタッフが常に動いているということを認識したいものである。

我が会も青葉会になつて、実質的な活動を始めたように思つ。高川孝恭氏(34年卒)が皆に推され、会長になり、52年から55年まで実績のない会の運営に苦労し五十周年記念行事を立派にやりとげてくれた。引き続いて、石田弘氏(29年卒)が引き受けてくれ、そして十年の多忙の中、時には地方出張のその足で幹事会に駆けつけることもしばしばあつた。こうして引

続き「ともかき」を毎年発行、会員へ郵送し、不明会員の住所を発掘整理し、勤労感謝の日を定めて、年次総会、懇親会を開催。会員の理解と協力を財政も確立し、平成二年創立六十周年記念行事を盛大に挙行した。そして会をどっしりした軌道にのせてくれたといつてよい。また後継者の育成にも心掛け、現会長五百川武氏（41年卒）もその一人である。

高校定期制としては他に例をみないわが同窓会は三田の誇りであり、この灯を絶やすことなく行きたいものである。そして会長を中心としたスタッフの皆さんに激励と感謝の気持を捧げたいと思う。

いに尋ね当て、中野駅で再会、抱き合って喜び、翌日、奈良さんの案内で武田先生宅訪問、数年で亡くなれ、また三人で葬式に参りました。諏訪さんを尋ねて新潟へも行き、筑波山へ見えられるので迎えに行き、自宅へ立寄られ、その後今尾さんと三人で東京へ一泊、夜明けまで語り合い、母校の前で撮影。六十周年に出席する約束。勝田さんは身体悪く欠席し残念でした。暖くなつたら山梨へ行く事を今尾さんと話合い、でも待つ事なく一月二十五日に亡くなられました。偉大な人柄の人でした。親友を亡くし心から御冥福をお祈り致します。

不安について相談を受けました。

当時、私も若かった為適切なアドバイスも出来ず、その後彼は三田高校から去つて行きました。オセンチ山の雰囲気が彼をそなさせたのでしょうか？

あの時点でもつと強く営業の意義を伝えられないと悔いが残ります。

現在、彼が立派になつて活躍していることを、心から願っています。

オセンチ山はそんな美しい山でもありました。

かな泰山木、時計台のある校舎、ロマンティックなおせんち山、そして東京タワーの見える校庭と坂本九ちゃんの歌そのものであつた事を懐かしく思います。昨今の日本では泡(バブル)崩壊が問題になつていていますが真摯に物事を考え見ていた、人々それぞれの青春時代を大切にして生きて行きたいものです。

昨年の青葉会総会後に恩師の石関先生、高尾先生、須磨先生をお迎えして三クラス合同の42年卒同期会がありました。なかなかいい顔、お世話になつた先生方、お互いに24年も過ぎましたが、和やかな雰囲気の中で当時の気持ちに直ぐ戻りなつかしい思い出の話に花が咲きました。次回の同期会にて再会を約束して散会いたしましたが、青葉会の同窓会とあわせて是非42年卒の顔を見せて下さい。

最後に、御多忙の中、同期会を企画された幹事の皆様に心から感謝を申し上げます。

きみて、一日一日近くのを楽しみにしていました。当日は時間より早く田町の駅に着き、学校の近くを歩いて時間の来るのを待ち、会場になつてゐる中国飯店三田店に行きました。

卒業して初めて同級会に出席、26年ぶりに会うなつかしい顔、お世話になつた先生方、タイムマリンップをして高校生の時の自分にもどつてしまつた。時間のすぎるものも忘れ会話がはずむ、時間と止まれといいたくなるほど楽しく過ごすことができました。石関先生、高尾先生、須磨先生、お会いなく元気にお会い出来て本当にうれしく思いました。

○ 中出彰子(田中) 14 卒
八甲の卒業生のクラス会で募った有志で、平成元年に大部分にお住いの松田先生をお訪ねし、お心のこもったおもなしに与りました。来年は先生の米寿、私夫の占籍を記念して再びお訪ねする予定です。クラス会は毎年一回開きますが、御主人の又御本人の健康上、判明者の半数(十名前後)の出席がやつとです。

○ 田近静枝(小関) 14 卒
金婚式を迎えました。四人の子どもと七人の孫に恵まれ貧しくても心豊かに暮せる日々を感謝しております。

残る人生はボランティア(赤十字奉仕団青少年育成)に少しでもお役に立ちたいと思っています。

○ 田崎泰子(田後) 17 卒
(箱根在住)
箱根の養護施設四十年、六十五歳現役でがんばっています。施設の子供も定時制にゆき、自分の力で歩むよう指導しています。卒業して50年、クラスの方も減ったり健健康不調で集まりが少なくなり、淋しいですが自然の流れです。東海道線で田町を通る時見えていた母校の時計が見えず残念です。

○ 江森春江(宮沢) 18 卒
(館林在住)
卒業してもう50年近くになります。半世紀ともいうべきこの年月。第六の思い出と共に私の生きる支えになつているように思われます。
毎年クラス会を置いておりますが、當時20名前後のかつ